

子どもは生後9か月ごろから周りの大人の真似をしたがるようになります。子どもは大人のそばで、その行動をよく観察しています。真似をするのは、子どもが周囲の人に興味関心をもっている証拠です。言葉を覚え毎日の生活習慣をつけるうえで、とても大切な対人コミュニケーションの第一歩となります。

子どもがどんな遊びが好きか分からない、子どもと一緒に遊ぶのが難しいとおっしゃる方がいます。子どものいろいろな動作や声を真似したり、子どもに真似してもらったりといったやりとり遊び、まねっこ遊びをしてみましょう。

絵本「あがりめ さがりめ」。あーがりめ さーがりめ ぐるりと まわって —。手遊びや体全体を使ってうたう遊び歌15曲が、心弾む楽しい絵で描かれています。子どもと一緒にまねっこやふれあい遊びを楽しんでみませんか。

「あぶくたった」。あぶくたった にえたった にえたか どうだか —。家族みんなでうたいながらお汁粉が煮えるのを待っています。おいしそうな小豆色、いい香りをかぎ、ぐつぐつ煮える音を聞いて、いただきまーす。絵本の中で五感も育まれます。

これらの絵本に紹介されているのは「わらべうた」。わらべうたは、童(子ども)の歌で、子どもたちが歌いやすいようにメロディーとリズムがとてもシンプルに作られています。昔から親子間や子どもたちの中で伝えられ歌い継がれてきました。子守唄、絵描き歌、数え歌、手遊び歌、てまり歌などたくさんわらべうたがあり、そのほとんどが作者不明です。音域が狭いため、子どもでも真似のしやすい楽しい遊びとして現代まで伝わってきました。わらべうたには子どもの発達を促すさまざまな効果もあります。

秋の夜長、スマホやテレビを消して、子どもと笑顔を交わしながら穏やかなひとときを過ごしてみませんか。

“どんぐりころちゃん あたまはとんがって おしりはぺっちゃんこ どんぐりはちくりしよ”

「あがりめ さがりめ —おかあさんと 子どもの あそびうた—」 ましま せつこ こぐま社

「あぶくたった」 さいとう のぶ 構成・絵 ひさかたチャイルド